

県内企業の夏のボーナスは前年比▲1.3%、3年連続の減少

——埼玉県内企業 2021年夏のボーナス支給状況アンケート調査 ——

2021年夏のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した。一人当たり支給額は前年比▲1.3%と3年連続の減少となった（7月実施。対象企業1,007社、回答企業324社、回答率32.2%）。

○2021年夏のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は458,832円となり、前年実績の465,035円に比べ▲1.3%と3年連続の減少となった（ボーナス支給実額を記入いただいた企業234社を集計）。新型コロナウイルス感染症の影響で業況が悪化したところがあることや、景気の先行き不透明感からボーナス支給に慎重となるところが多いためとみられる。

業種別にみると製造業は510,210円と前年の519,981円から1.9%の減少、非製造業は437,824円で前年の441,794円から0.9%の減少となった。製造業では、化学が前年比7.2%の増加となったが、輸送機械同▲12.9%、電気機械同▲3.8%などで減少となった。非製造業では、建設が同8.9%の増加となったが、サービス同▲2.7%、運輸・倉庫同▲0.8%などで減少となった。

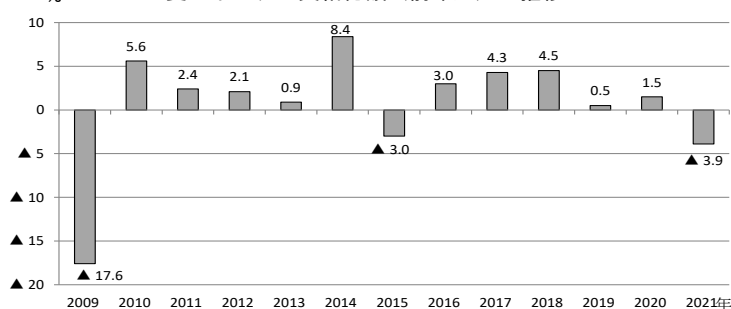
2021年夏のボーナス一人当たり支給額

(社、円、%)

| | 企業数 | 一人当たり支給額 | | |
|------|-----|----------|---------|------|
| | | 2021年 | 2020年 | 前年比 |
| 全産業 | 234 | 458,832 | 465,035 | ▲1.3 |
| 製造業 | 97 | 510,210 | 519,981 | ▲1.9 |
| 非製造業 | 137 | 437,824 | 441,794 | ▲0.9 |

○2021年夏のボーナス支給総額は前年比3.9%の減少となった。また、支給対象人員は前年比2.6%の減少となり、支給総額、支給人員ともに減少となった。一人当たり支給額の減少に加え、雇用環境に弱い動きが続いていることから、支給人員も減少となり、支給総額は6年振りの減少となった。

夏のボーナス支給総額（前年比）の推移



○2021年冬のボーナス支給予定については、2020年冬のボーナスに比べて、「増加」25.6%、「変わらない」56.0%、「減少」10.8%、「支給しない」7.6%となった。「変わらない」とするところが半数近くを占めるが、「増加」が「減少」を上回った。コロナ禍が落ち着くことや、業績の回復を期待しているところが多くなっているためとみられる。

2021年冬のボーナス支給予定

(%)

| | 増加 | 変わらない | 減少 | 支給しない |
|------|------|-------|------|-------|
| 全産業 | 25.6 | 56.0 | 10.8 | 7.6 |
| 製造業 | 40.7 | 43.1 | 8.9 | 7.3 |
| 非製造業 | 16.1 | 64.2 | 11.9 | 7.8 |

(照会先 吉嶺)

2021年夏のボーナス支給状況について

2021年夏のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した（対象企業1,007社、回答企業数324社、回答率32.2%）。

（1）ボーナス支給実績の有無

2021年夏のボーナスの支給実績をたずねたところ、「正社員・パートともに支給」とした企業は54.3%、「正社員のみ支給」とした企業は34.6%、「支給しない」とした企業は11.1%となり、約9割の企業でボーナスを支給している。

前年実績と比較すると、「正社員・パートともに支給」は0.8ポイント減少、「正社員のみ支給」は0.9ポイント増加、「支給しない」は前年と同じであった。今回調査では「正社員・パートともに支給」とする企業がやや減少し、ボーナスを支給する対象を絞る動きがみられる。

業種別にみると、「正社員・パートともに支給」とする企業は製造業では66.4%、非製造業では47.0%である。「正社員のみ支給」は製造業で24.6%、非製造業で40.6%。また、「支給しない」は製造業で9.0%、非製造業で12.4%であった。

製造業では「正社員・パートともに支給」とする割合が高く、非製造業では「正社員のみ支給」および、「支給しない」とする割合が製造業に比べて高い。

2021年夏のボーナス支給実績の有無

(%)

| | 合 計 | 製造業 | 非製造業 |
|------------------|----------------|----------------|----------------|
| 正社員・パート ともに支給 | 54.3 (55.1) | 66.4 (67.7) | 47.0 (47.3) |
| 正社員のみ支給 | 34.6 (33.7) | 24.6 (23.6) | 40.6 (40.0) |
| 支給しない | 11.1 (11.1) | 9.0 (8.7) | 12.4 (12.7) |

() 内は2020年実績

（2）一人当たりボーナス支給額

2021年夏のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は458,832円となり、前年実績の465,035円に比べ▲1.3%と3年連続の減少となった（ボーナス支給実額を記入いただいた企業234社を集計）。新型コロナウイルス感染症の影響で業況が悪化したところがあることや、景気の先行き不透明感からボーナス支給に慎重となるところが多いためとみられる。

業種別にみると製造業は510,210円と前年の519,981円から1.9%の減少、非製造業は437,824円で前年の441,794円から0.9%の減少となった。製造業では、化学が前年比

7.2%の増加となったが、輸送機械同▲12.9%、電気機械同▲3.8%などで減少となった。非製造業では、建設が同8.9%の増加となったが、サービス同▲2.7%、運輸・倉庫同▲0.8%などで減少となった。

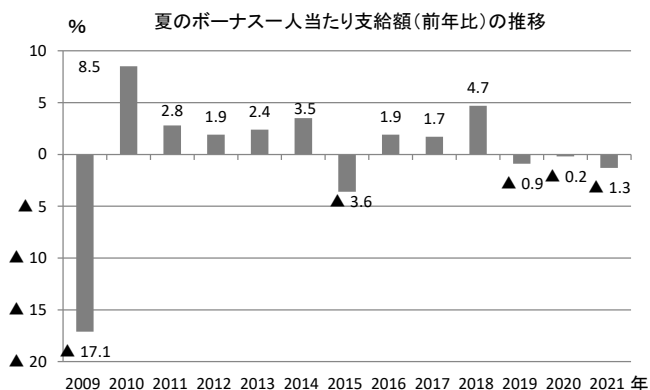
2021年夏のボーナス一人当たり支給額
(社、円、%)

| | 企業数 | 一人当たり支給額 | | |
|------|-----|----------|---------|-------|
| | | 2021年 | 2020年 | 前年比 |
| 全産業 | 234 | 458,832 | 465,035 | ▲ 1.3 |
| 製造業 | 97 | 510,210 | 519,981 | ▲ 1.9 |
| 非製造業 | 137 | 437,824 | 441,794 | ▲ 0.9 |

(3) 一人当たり支給額(前年比)の推移

夏のボーナス一人当たり支給額(前年比)の推移をみると、2009年にリーマンショックの影響を受け、企業収益、雇用環境の悪化などにより、前年比▲17.1%と大幅な減少となった。その後、売上・利益の改善や雇用調整が進んだことなどから、ボーナス支給を回復する動きがみられ、2014年まで5年連続で改善が続いた。

2015年は消費増税後の売上・利益回復の遅れなどから6年ぶりに減少に転じた。2016年から2018年までは業況の改善や人手不足を背景として増加が続いていたが、2019年は米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる景気の不透明感の強まりなどから4年ぶりに減少に転じ、今回調査では新型コロナウイルス感染症による影響もあり、3年連続の減少となった。



(4) 支給総額と対象人員

アンケート回答企業の2021年夏のボーナス支給総額は216億78百万円で、当該企業の前年実績225億50百万円から3.9%の減少となった。また、支給対象人員は前年比2.6%の減少となり、支給総額、支給人員ともに減少となった。一人当たり支給額の減少に加え、雇用環境に弱い動きが続いていることから、支給人員も減少となり、支給総額は6年振りの減少となった。

業種別の支給総額の前年比をみると、製造業が前年比6.7%の減少、非製造業が同2.5%の減少。支給対象人員は製造業で同4.9%の減少、非製造業で同1.6%の減少となった。製造業、非製造業ともに、支給総額、支給人員とも前年に比べ減少となり、減少幅はいずれも、製造業で大きくなっている。

2021年夏のボーナス支給総額と対象人員

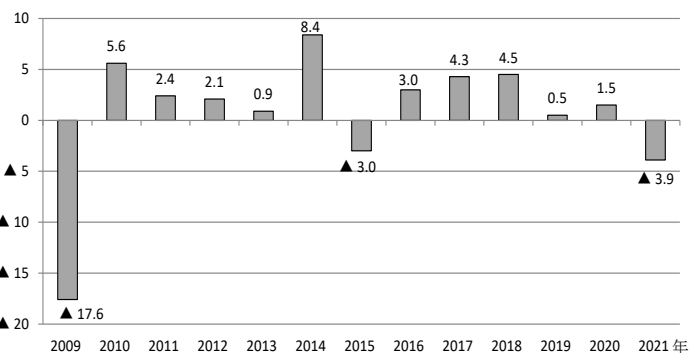
(百万円、人、%)

| | 支給総額 | | | 支給対象人員 | | |
|------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 2021年 | 2020年 | 前年比 | 2021年 | 2020年 | 前年比 |
| 全産業 | 21,678 | 22,550 | ▲ 3.9 | 47,246 | 48,491 | ▲ 2.6 |
| 製造業 | 6,996 | 7,495 | ▲ 6.7 | 13,712 | 14,414 | ▲ 4.9 |
| 非製造業 | 14,682 | 15,055 | ▲ 2.5 | 33,534 | 34,077 | ▲ 1.6 |

(5) 支給総額（前年比）の推移

夏のボーナス支給総額（前年比）の推移をみると、2009年に▲17.6%と大きな落ち込みとなった後、持ち直しが続き、2014年まで5年連続の増加となったが、2015年は一人当たり支給額同様6年ぶりの減少となった。その後、ボーナス支給額を回復する動きがみられたが、2019年は米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる景気の不透明感の強まりなどから伸びが鈍化、今回調査では新型コロナウイルス感染症による影響から、6年振りに前年比マイナスとなった。

夏のボーナス支給総額（前年比）の推移



(6) 2020年冬のボーナス支給予定

2021年冬のボーナス支給予定については、2020年冬のボーナスに比べて、「増加」25.6%、「変わらない」56.0%、「減少」10.8%、「支給しない」7.6%となった。「変わらない」とするところが半数近くを占めるが、「増加」が「減少」を上回った。コロナ禍が落ち着くことや、業績の回復を期待しているところが多くなっているためとみられる。

業種別にみると、製造業では「増加」が40.7%、「減少」が8.9%。非製造業では「増加」が16.1%、「減少」が11.9%と、製造業で「増加」とするところが多くなっている。

2021年冬のボーナス支給予定

(%)

| | 増加 | 変わらない | 減少 | 支給しない |
|------|------|-------|------|-------|
| 全産業 | 25.6 | 56.0 | 10.8 | 7.6 |
| 製造業 | 40.7 | 43.1 | 8.9 | 7.3 |
| 非製造業 | 16.1 | 64.2 | 11.9 | 7.8 |

別 表

業種別対象・回答企業数（2021年夏のボーナス支給について）

| | 対象企業数 | 回答企業数 | 業種別構成比 (%) | うち中小企業 の占める比率 (%) |
|-----------|-------|-------|---------------|-------------------------|
| 全 産 業 | 1,007 | 324 | 100.0 | 93.2 |
| 製 造 業 | 384 | 122 | 37.7 | 97.5 |
| 食 料 品 | 50 | 16 | 4.9 | 100.0 |
| 織 維 | 20 | 9 | 2.8 | 100.0 |
| 紙・紙加工品 | 19 | 6 | 1.9 | 100.0 |
| 化 学 | 50 | 16 | 4.9 | 100.0 |
| 窯 業・土石 | 20 | 7 | 2.2 | 100.0 |
| 鉄鋼・非鉄金属 | 19 | 4 | 1.2 | 100.0 |
| 金 属 製 品 | 20 | 10 | 3.1 | 100.0 |
| 一 般 機 械 | 47 | 5 | 1.5 | 100.0 |
| 電 気 機 械 | 39 | 14 | 4.3 | 92.9 |
| 輸 送 機 械 | 47 | 13 | 4.0 | 92.3 |
| 印 刷 | 21 | 6 | 1.9 | 100.0 |
| そ の 他 製 造 | 32 | 16 | 4.9 | 93.8 |
| 非 製 造 業 | 623 | 202 | 62.3 | 90.6 |
| 卸 売 | 79 | 38 | 11.7 | 94.7 |
| 小 売 | 87 | 21 | 6.5 | 61.9 |
| 建 設 | 85 | 36 | 11.1 | 100.0 |
| 不 動 産 | 47 | 18 | 5.6 | 94.4 |
| 運 輸・倉庫 | 68 | 22 | 6.8 | 100.0 |
| 電 気・ガス | 17 | 6 | 1.9 | 100.0 |
| 情 報 通 信 | 38 | 5 | 1.5 | 100.0 |
| 飲 食 店・宿泊 | 41 | 11 | 3.4 | 100.0 |
| サ ー ビ ス | 161 | 45 | 13.9 | 82.2 |